

第7回新生公立鳥取環境大学設立協議会及び第2回新生公立鳥取環境大学 経営・教育研究審議会準備部会合同会議 議事概要

日 時 平成23年11月25日(金) 15:10～16:00

場 所 鳥取県庁本庁舎3階 第4応接室

出席者 《新生公立大学設立協議会》

○鳥取県：平井知事、横濱教育長、高橋企画部長

○鳥取市：竹内市長、中川教育長、松下企画推進部長

○鳥取環境大学：八村理事長、古澤学長、谷口常務理事

《経営・教育研究審議会準備部会》

○経営審議会委員予定者：清水委員、林田委員、若原委員、渡邊委員

○教育研究審議会委員予定者：田中委員、常田委員

○平井知事あいさつ

- ・この度は、新生鳥取環境大学に向け、学長の選任であるとか今後の方向性について、大変貴重な御審議を賜ることに御礼を申し上げたい。
- ・おかげ様で、現在のところ、志願者も5倍ぐらいとなり、昨年とは大違いとなっている。
- ・これもひとえに、県民の皆様、或いは県外の方も含め、環境に対する社会のニーズの高まりが背景にあると思う。
- ・また、今、日本から海外へと企業流出が心配されている。更にヨーロッパの危機が襲ってくる。
- ・このような中で、経営という山陰で唯一の学部を作ろうということも評価をされているのかもしれない。
- ・いずれにしても、まだまだ生まれていない子どもであり、これからようやくこの世に生を受けることになる。
- ・皆さんの方で御議論いただいたことをこれからしっかりと受け止め、更に今後も御議論いただき、鳥取環境大学をいい方向へと発展をさせ、子ども達、人材の育成、地域の発展に資する存在へと高めていきたい。
- ・今後とも貴重な御提言と御理解を賜ることを心からお願いし、またこれまでお世話いただいたことに対し御礼申し上げ、冒頭のあいさつに代えさせていただく。

●事務局

- ・新委員の国立新美術館の林田館長を紹介する。林田館長には、来年度の経営審議会の委員として内諾をいただいたので、本日御出席いただいたところである。
- ・それでは、早速審議事項に入りたい。
- ・まず役員体制についてである。
- ・前回の準備部会において、学長選考会のメンバー6人の方を選任いただき、その後選

考を進めていただいた。

- ・選考過程等については、事務局の方で報告したいと思うが、座長を務めていただいた清水委員、よろしいか。

○清水委員

- ・それではお願いしたい。

●中山局長

資料1 説明（略）

○平井知事

- ・せっかくこうして委員の皆様にご審議いただいた結果であるので、再びではあるが、私としても是非その結果に則って、現学長に先導をとっていただくことで異論ない。
- ・是非多くの人達と力を合わせていただき、まとめあげて、新しい大学の力を作っていただきたい。

○竹内市長

- ・私も結論として、この選考結果に沿って、古澤巖現学長が新しい公立環境大学の学長として就任されることを強く推薦したい。
- ・この新しい大学は、新しい使命をもって地域の発展のために大きく貢献するということが期待されているわけであるが、例えば教職員の体制など、これまでの私立の大学からの継続的な体制ということもある。
- ・これまでの反省を踏まえて新しい展開ができるということで、この過渡期の段階において学務を進めていただく上で、古澤氏が一番ふさわしいものと考えている。
- ・是非、新しい意味での、公のいいところと民間のいいところを合わせたスタートを切っていただきたいと願っている。

○古澤学長

- ・この度、2年間の学長の職務をせよと判断いただいた。
- ・大変重い役割であるが、今まで本学11年、私が来てから6年と8か月、いろんな問題を抱えながら中身を改めて精査し、問題点、課題、その他を明らかにしながら、今回、公立化に向け、中身を大きく変えてきた。
- ・そのようなことに取り組んできて、その責任というものは、大変重たいものがあると思っている。
- ・何はともあれ、大学の新しい立ち上げというものは大変大事であるし、しっかりとそれを見届け、次の10年にうまくつなげるようにしっかりとした礎を作りたい。
- ・これから経営審議会、教育研究審議会の皆様にもいろいろ御支援、御指導をいただきながら、新しい鳥取環境大学を育てていきたいと思う。

●事務局

- ・それでは、続きまして審議事項の2番、3番の中期目標、学納金について審議していただきたい。
- ・まず、一括して、事務局より説明する。

●中山局長

資料2～資料4説明

○田中委員

- ・中期目標についてであるが、前回の指摘を盛り込んでいただき、また、詳しく今後の大学の教育方針或いは経営方針などが書き込まれており、基本的には了とさせていただきたい。
- ・一つだけ注文めいた話であるが、前回トルクのノウハウを教育に生かしてはどうかと申し上げた。
- ・例えば、3ページの所に、「業務運営」の中で「地域に開かれた大学づくりの推進」という項目があるが、この開かれた大学ということを経営運営だけでなく、教育そのものの中で開かれた大学というものを実践されるのもいいのではないか。
- ・それは、地域社会との連携などにもかかわるので、既書いてあると言えばそうであるが、例えば、この「社会貢献に関する目標」の「地域社会との連携」の中で、「大学の教育の成果を地域社会に還元する」という項目があるが、逆に、地域の企業とか団体とか、場合によってはNPO法人とか、いろんな地域に住んでおられる人達のノウハウを、大学の教育の側に取り入れる、又は取り込むような工夫もあってもいいのではないのかと。
- ・これまで、10年余りの鳥取環境大学を外から見ていると、少し距離感があったような感じが、正直している。
- ・これは、そうではないという意見もあろうかと思うが、公立大学になるということで、より一層市民、県民と一緒にあってというか、支え合っていけるような学校運営を是非望みたいと思っている。
- ・そのような趣旨が盛り込まれてあるということであれば、別に項目として挙げる必要はなかろうかと思うが、そのような地域社会との連携という項目を教育そのものの中でも是非実践していただきたいと感じ、発言させていただいた。

●事務局

- ・そのようなこともきちんと盛り込む方向で考えたい。

○若原委員

- ・この中期目標については、今後、まだ12月、1月と議論する時間はあるのか。

●中山局長

- ・将来的には、2月の議会への提案させていただくので、今後12月、1月と御議論いただいたり、意見を聞いたり、そういう機会は設けたいと思っている。

○若原委員

- ・資料2の1ページの所で、下の方に「教育に関する目標」というのがある。
- ・この中でかっこの2の1行目に「入学者受入方針の明確化」という言葉が出てくる。
- ・これは出てくるが、後、例えば教育課程編成・実施の基本方針とか、学位授与の基本方針という、いわゆる3つのポリシーを明確にすることというのが、認証評価などで求められていると思う。
- ・アドミッションポリシー以外のこの3つのポリシーについても、決めておく必要があるのではないか。

●事務局

- ・御指摘を踏まえて、そのようなものもきちんと盛り込むように考えていきたい。

●中山局長

- ・教育の部分は、事務局だけでは盛り込み忘れ等もあるので、いろいろと御指摘いただき、もう少し書き込みをしたいと思う。

○林田委員

- ・鳥取環境大学が、このような形で前進される条件が整いつつあるということで、大変うれしく思っている。
- ・我々も独立行政法人の国立美術館で、計画を立て、その中で努力していくという機関になっているわけであるが、その場において感じるのは、計画づくりと、それから現場とのすり合わせが非常に大事なのではないかと感じる。
- ・もちろん数値的な目標が努力目標としての役割を十分果たしていくことも重々承知しており、いろんな形で示すのは大事なことだと思うが、併せて、大学自体がそれに向かっていく、本当に大学の目標となるようなプロセスもとても大事なことだと思う。
- ・これからその所に取り組んでいかれるものと思うが、そこをなるべく丁寧にやっていただくようにできないかと思っている。

●中山局長

- ・大学の方でやっていただく具体の項目も、これから学長以下とよく話をしていきたいながら、そのあたりのすり合わせをしていきたいと思う。

○竹内市長

- ・私もざっと拝見しただけなので、まだよくよく見てみたいなと思っているところであるが、まず第一に、中期目標というのは、県議会も同様だと思うが、市議会に関心を持って見られると思うし、2月、3月の議会に出す前には、やはり事前に説明が必要

だと思う。

- ・今日こういう形で、案として出された内容は、議会に、できるだけ早い時期に説明したいと考えており、その点について、何か事務局の方で考えがあれば聞かせていただきたい。
- ・鳥取市では、12月議会が6日から始まるような状況にある。
- ・もう一つは、資料の中で右の欄に行動目標案があり、左の方に概略が書いてあるが、実績か何かは数字で出ている。
- ・逆に言うと目標とする数字というのは、あまり出てきていないような状況である。
- ・その中で、私が特に注目しなければいけないと思っているのは、例えば、就職の内定率の数字とか、県内就職内定率の数字とか、学生の満足度などである。このあたりが、この大学の今後の持続的な発展の成否に大きくかかわっていると思う。
- ・先ほど、大学の入学の方では大分手ごたえが感じられるような状況が見受けられると、私もそういう認識でいるが、就職の方で、今年度末の就職、或いは来年度以降の就職の数字も含めて、我々非常に問われている、地域から問われている、保護者から問われている、学生から問われていると思う。
- ・就職支援は、「教育に関する目標」の中の「学生支援に関する目標」の中で少しだけ触れてある。
- ・このあたりは目標の設定とも相まって、相当独立した項目でも掲げるべきではないか。
- ・もちろん教育に関する目標でもあると思うが、社会でこれから活躍する場面での就職というのは、また一般的な大学教育とは別に、就職に対する支援、或いは地元就職に対する支援といったあたりが非常に重要なのではないか。
- ・少なくとも当面は、入学の方がそれほど心配しなくてもいいのではないかと思える中で、就職の方はどうかということが問題意識として大きいので、そのことを申し上げたい。
- ・それと学生の満足度。やはりこの大学に来てよかったという満足度が高い大学を作っていくことが、一番のPRにもなると。
- ・したがって、学生の満足度を高めようということは非常に大事なことで、これをどのような形で実現し、どのような形でその数値を上げて行くのかというあたり。
- ・4年後に卒業したときの満足度も大事であるが、少し耳にしたのは、まず大学に春入って、次のゴールデンウィークの時に家に帰った段階で、家族や出身校の先生に、あの大学は良かったとか、そのような言葉が出るようでないとなつながらない。
- ・学生の満足度として、入学した次のゴールデンウィークに家に帰った時に、出身校に立ち寄った時というようなことも含めて、4年後の結果ではなくて、早い時期での満足度のアップの方法なども考えておく必要があるのではないか。
- ・要するにそういったことにも、十分踏み込んでほしいという思いをもって、この内容を見ているので、その点よろしくお願ひしたい。

●中山局長

- ・まず、議会の関係であるが、今回この協議会と準備会の合同部会で説明させていただいたので、それぞれの11月県議会、12月市議会で、少なくともこの原案は説明させていただいて、議会等の御意見を踏まえて再度修正をしていくというような形をとらせていただけたらと思う。

○竹内市長

- ・是非そのようにさせていただきたい。

●中山局長

- ・これはまだ成案ではなく、何度もこれを修正させていただく。
- ・それと、今市長が言われたように、現在数値目標を定める項目でも、現状だけの数字を掲げているものもあるので、次の段階には、この数字を踏まえて、大学側が6年後の目標として到達いただく目標の設定も考えさせていただきたい。
- ・就職の点については、確かにあまり特段の項目として出していないので、御指摘を踏まえ、教育に関する目標などの所で特別な項目での特出しの形へ、構成を変えることを検討させていただく。
- ・学生の満足度については、学長の方からお願いしたい。

○古澤学長

- ・大学がどう評価されるかというのは、学生がどれだけ満足度をもっているかということにかかって来ると思う。
- ・やはり大学生がこの大学に来て良かったと、卒業生が大学に来て良かったと、そのような言葉を発していただけるような大学づくりは非常に大事だと思う。
- ・それは、大学生活全般、教育内容、もちろんいろんな支援等々もかかわって来ると思うが、そのあたりをしっかりと解析して、少なくとも何年か後には、満足度をしっかりと上げて行きたいと思っている。
- ・今の大学も、学生はそれなりに満足しているが、それだけでは具合は悪いと思う。
- ・それが、大学を持続的に運営できる根本であるので、目線を出来るだけ学生に合わせてやっていくというのが基本かと思う。

○若原委員

- ・教育の質の保証という点からいって、教育目標の数値化というのは非常に難しいと思う。
- ・ここに書いてあるTOEIC、TOEFL何点以上、何%とか、或いは国家試験合格率何%以上など基準がある場合はいいが、一般的に大抵ない。
- ・であるので、資格試験の合格者など数値化しやすいものはできるだけ数値化することと、後は、学部学科別に到達目標を設定するというようなことをやっていくしかないと思う。
- ・大変これも難しい問題だと思う。

○平井知事

- ・私も各先生方がおっしゃったことに賛成であり、是非そのようなことを盛り込み、修正していただければと思う。
- ・途中経過だという前提であると思うが、2点だけ申し上げたい。
- ・その趣旨は、県議会でいろんな意見が出て、今回公立化するに当たり、その公立化を認めるか否かで議論が分かれた。
- ・その時にやはりこれまでと同じような10年間を繰り返さないようにというのが、この公立化を認めるにあたり、非常に強い意見だったと思う。
- ・その趣旨の一つは、学生が集まってくる大学にしなければならないということである。
- ・もう一つは、持続的な経営がなされうるようにならなければならない。
- ・この意味で、ここ数年は赤字化した。確かに経営が苦しいのはここ数年であり、このままではいかんということがあった。
- ・ここは、実は設置者側では非常に関心が深いところであり、議会なり県民の皆さんに分かりやすい形で、提示して経営を監視しなければならないと思う。
- ・前者については学生満足度だとか、入学の定員充足率という指標がここに書いてあるが、経営の方がもう一つははっきりと書ききれてないように思う。
- ・一応、安定的な経営確保に関する目標という項目は立ててあるが、端的に、収支差をどれくらいにするとか、分かりやすい数字を目標として設置者側が提示をさせていただくような交渉を大学側と行い、設置者側としてとりまとめる必要があると考えている。
- ・また次回までに工夫していただければ思う。
- ・数値化は非常に難しいところであるが、議員や住民の皆さんには、同じような経営体質に戻りはしないかということが一番の関心事だと思うので、端的に見えやすい指標を入れていただければと思う。
- ・あともう一点は、せっかく生まれ変わる大学であり、各界の期待が高まっていると思う。
- ・この中期目標についても、さすがこの大学というようなものを指標の中にでも盛り込んではどうかと思う。
- ・例えば環境経営の視点。CO2の排出はどうであるとか。そのあたりは、一番最後に大学側で策定すべきアクションプランの中で関連したところはあるが。
- ・大学を経営する、或いは組織を運営するに当たって、環境大学にふさわしい目標を持ってもらっての方が対外的なアピールになるし、建学の精神を波及させることになると思う。
- ・例えば、その他で言えば、国際的な環境に関する学術会議をやっていくとか。
- ・公立鳥取環境大学としてステータスが一段上がると思うが、その辺も中期目標の中で目指してもらってはどうかと思う。
- ・一つは経営のこと、二つ目は建学の理念だとか大学のあり方に沿うような環境に関連したり、学術研究を表すような指標も入れていただければと思う。

●中山局長

- ・その辺作業が追いついておらず、不十分な点もあるので、次回に追加してお示したい。

○竹内市長

- ・先ほど一言触れたが、新しい公立大学法人鳥取環境大学は、ゼロから生まれたのではなく、公設民営という歴史を11年間やり、経過的なものもあるが、来年度から新しい公立大学として1年生を迎える状況にある。
- ・公設民営の時に私学としていろいろと苦労や努力した点を、公立大学法人になってから、教訓として生かすべきだと思う。
- ・特に、若原先生とか渡邊先生が私学の良さを伝えていただける状況、体制になっていることを考え合わせると、公立大学になった時に、民営時代の反省や教訓を生かして私学のような取り組みをやっていると。
- ・高知工科大学なども公設民営から公立になったが、非常にアグレッシブに動いているという情報も聞いている。このような要素も持たなければいけないのではないか。
- ・公立大学になったので安心であるというような事ではないはずなので、和魂洋才ではないが、そのような精神がどこかにじみでるところがほしい。
- ・県、市がある程度交付税で応援してくれるというようなことが垣間見られるのではなくて、学生の入口、出口、そして真ん中の中身まで個別に私学で頑張っている部分を十分に取り入れながら、公立大学として頑張るのだという部分がほしいと今痛切に思っている。そのような精神を入れてほしい。

●中山局長

- ・そこはまた工夫をさせていただきたい。

○林田委員

- ・今言われたことは、私も非常に大事なことだと思う。大学改革は、よほど力を入れてかからないとできない。
- ・この場合、いろいろ先行事例を聞いているが、大学改革における大学事務局の役割がものすごく大事になると思う。
- ・国立大学における従来の補佐的な役割から、事務局も改革の中に組み入れるような、そのようなものを持っている人材が求められている。
- ・従来型の公務員の人事異動ではなかなか大学の運営が難しくなっている状態となっている。
- ・今回公立になり、事務局をどう生かしていくことができるのかが非常に重要になってくると思う。
- ・具体的にはイメージが分からないが、通常の短期で異動される方ばかりで成りたっていくのは難しいと思う。

- ・やはり経営の専門家としてふさわしい人、何人かコアの人を確保することがとても大事になってくると思っている。当局の応援をよろしくお願いしたい。

●事務局

- ・その他、御意見等がないようであれば、本日の議事はここまでとさせていただきます。
- ・今日議論いただいた内容は、県議会、市議会へ報告させていただきます。
- ・いただいた意見を踏まえて中期目標を修正し、次回の会合でお示ししたいと思う。

以 上